

## 調査報告

# 保育実習Ⅱについての学生の認識

大 滝 まり子

## Students' Perceptions of Their Nursery School Teacher Training

OTAKI Mariko

### 1 調査の目的

実習は、学生が保育を経験することによって保育の楽しさを再確認するとともに、自分の力不足を認識したり、自分の保育観を問い直し、学ぶ姿勢を振り返る機会でもある。

本学では、学生は2年間で4回の学外実習を経験する。そのうち、2年生6月の保育所実習（保育実習Ⅱ）と同8月の幼稚園実習では、実習生はⅠ、Ⅱ回自分で書いた指導案に従って実習をするのが一般的である。ところが、実習後の報告では「指導案が書けなかった」「短大で指導案を習っていない」ということを最近よく耳にする。ちなみに、1年生の1月に実施する保育所実習では指導案を書くことは少ない。また2年生5月の施設実習では、施設で決めたデイリープログラムに従って実習することが多いため、やはり指導案を書くことはあまりない。そのため、2年生の保育所実習で初めて指導案の作成と実践に直面するのである。

本学では指導案のための専門科目はないが、

4科目（必修3科目、選択1科目）で指導案について教えている。それにもかかわらず、「習わなかった」という声が非常に多いのはなぜであろうか。指導案以外の点で「実習で出来なかった」、「難しかった」という場合は、「準備不足」「練習不足」「甘く見ていた」などと自己責任を認める傾向があるのだが。

そこで筆者は、保育所実習の結果をできるだけ速やかに幼稚園の実習指導に反映させたいと考え、2年生の保育所実習の終了直後に調査を実施した。

### 2 調査の方法

対象 保育実習Ⅱを終了した学生で、調査時間に出席していた96名。

時期 平成16年度の2年次保育所実習（保育実習Ⅱ）終了後、7月中旬の講義時間内に20分程度で実施。

調査内容 ①保育所実習Ⅱの全体について、②指導案について、③授業の改善について。

### 3 結果と考察

#### 〔1〕実習で学んだ「保育士として大切なこと」

表1 実習で学んだ保育者として大切なこと n=96

内 容(自由記述)	人数(%)
子ども一人ひとりを理解し、個々に応じた対応をする	24(25.0)
全体に目配りし、臨機応変に行動する(安全への配慮、一人とだけ遊ばない)	19(19.8)
明るく楽しく元気よく保育する	12(12.5)
子どもの視点、目線に立つ	11(11.5)
ときには見守ることも大切	9(9.4)
ことばかけ	8(8.3)
笑顔	7(7.3)
積極性	3(3.1)
子どもとの対等性	3(3.1)
子どもに必要なことを伝える力	3(3.1)
子どもとの共感	2(2.1)
子どもを第一に考える	2(2.1)
保育者同士の協力	2(2.1)
やさしさ	2(2.1)
少しのかかわりでも保育	2(2.1)
その他	12(12.5)
記載なし	2(2.1)

自由記述を整理して、表1にまとめた。一人の回答が2, 3点にわたる場合があり、合計は100%以上になる。また、意味が類似している項目もあるが、強調されている点を考慮して区別した。たとえば「子ども一人ひとりを理解し、個々に応じた対応をする」は、「子どもの視点に立つ」、「ことばかけの仕方」とは区別した。

「実習で学んだ、保育者として大切なこと」は、「子ども一人ひとりを理解し、個々に応じた対応をする」24人(25%)、「全体に目配りし、臨機応変に行動する」19人(19.8%)、「明るく、楽しく、元気よく保育する」12人(12.5%)、「子どもの視点、目線に立つ」11人(11.5%)、などで、「その他」の意見も例外なく、保育に対

する姿勢や、子ども理解を前提としたかかわり方が書かれていた。「ことばかけ」にしても、子どもへの理解なくして適切にできるものではない。こうした子どもへのかかわり方が「保育の技術」であるということまでは学生は十分に理解できなかったかもしれないが、実質的に、短大の授業では実感できなかった重要なことを学んできたのだといえるだろう。

#### 〔2〕実習園からの評価―「指導されたこと」

表2 実習で指導、注意されたこと n=96

内 容(自由記述)	人数(%)
もっと積極的に	18(18.8)
設定保育の準備、指導案	16(16.7)
元気、明るさ	12(12.5)
日誌の書き方、漢字	11(11.5)
全体への目配り	9(9.4)
安全面への配慮	6(6.3)
声の大きさ、質、話し方	5(5.2)
もっと自信を持って	4(4.2)
子どもができることは自分でさせる	2(2.1)
挨拶の仕方	2(2.1)
先生への協力	2(2.1)
保育者と実習生の立場の違い	2(2.1)
その他 例 ことばづかい 園児を見下げている	16(16.7)
記入なし	7(7.3)

実習園では、実習生の保育技術を育てるだけでなく、学ぶ意欲や態度を重視しているといわれる。それでは、学生に対してどのような指導があったのか(表2)。「設定保育、指導案」(16.7%)、「日誌の書き方、漢字」(11.5%)、「挨拶」(2.1%)など、具体的に焦点を定めた指導もあるが、「積極性」(18.8%)、「元気、明るさ」(12.5%)など態度に関することにも含まれている。筆者が実習巡回に行って指摘されるのも、「積極性」と「指導案」が多いという印象があ

り、学生の経験と一致している。

### 〔3〕実習園からの評価―「ほめられたこと」

表3 実習園からほめられたこと n=96

内容(自由記述ⅸ内数)	回答数(%)
積極性	22(22.9)
笑顔	20(20.8)
〇〇が上手 例 絵本や紙芝居の読み (5) パネルシアター (3) エプロンシアター (2) 手遊び (1)	13(13.5)
適切な対応 例 未満児に対して (2) 障害児に対して (1)	11(11.5)
やさしい	9(9.4)
子どもと仲良くなれた	9(9.4)
元気, 明るさ, おおらかさ	8(8.3)
ことばかけ	5(5.3)
実習での説明, 進め方	5(5.3)
掃除など手伝い	5(5.3)
日誌の書き方	4(4.2)
はきはきとした態度	4(4.2)
挨拶	2(2.1)
その他 例 前回(1年次)に比べて進歩, 感性, 素直, 健康, 実習生らしさ(各1)	7(7.3)
記入なし	9(9.4)

次に「ほめられた」ことを表3にまとめた。指導されたことと同様, 1位は「積極性」であった。「笑顔」(20.8%), 「やさしさ」(9.4%), 「元気, 明るさ, おおらかさ」(8.3%), 「はきはきとした態度」(4.2%)なども入れると, 態度や表情をほめられたものは延べ63名(65.6%)以上になる。また「その他」に含めたが, 「感性」をほめられたものも1名いた。

「何かが上手」であることをほめられたのは13名(13.5%)であるが, その内容は「絵本,

パネルシアター, 手遊び」などさまざまである。ほめられるとうれしく, 自信もつき, 笑顔につながるだろう。「手遊び」「パネルシアター」などは保育技術の中心ではないが, 保育のいろいろな場面で役に立つので, 実習で重視されており, 短大での学習や自己努力で準備することが可能である。従って, 「何かが上手」といわれたことは, 実習前の準備をほめられたことにもなるだろう。

「適切な対応」については, 「あのときのあの対応はよかった」という特定の場合を指しての評価と, 「全体的に対応がよい」の両方含まれている。この点をほめられた者は11.5%に過ぎない。「適切な対応」には子ども理解が前提になるので, この数字は単に「対応」の難しさだけでなく, 子ども理解の難しさも示していると考えられる。

### 〔4〕実習園の指導で納得できなかったこと

「納得できなかったこと」を記入したのは17名だけであった。回答の中には, 質問すれば解決できそうなこともあるが, 実習生にとっては質問しづらい問題も含まれている。たとえば「指導が食い違う」「保育者が指導内容を守らない」ことである。ただ, 一般的に全職員が細かいことまで一致するとは限らないし, 実習生側の解釈の問題ということもありうるので, 疑問は今後の課題としてとらえておくことも大切だと指導したい。

なお, 「納得できなかったこと」を記入しなかったうちの2名の意見を記しておく。学生A: 「実習生はよほどのことがない限り, すべてを受けいれ, 実習園を理解していくことが必要」, 学生B: 「まだどの指導が正しくて, どの指導が間違っているのかわからないので, その園の指導一つ一つから学んでいきたい」。

表 4 指導で納得できなかったこと n=17

内容(内数(複数回答))	人数
保育者により指導が食い違う	3人
実習生と保育者の扱いの違い 例・障害児のいるクラスで、普段保育者が3人いるが、部分実習では自分ひとりで対応させられた ・先生がしていてよいと思ったことをしたら注意された	3
やる気を認めてくれない 例・子どもの内面にかかわれていないと言われた	3
態度が冷たい、怖い	2
保育方法に疑問 例・縦割り保育で、年長児と0歳児が一緒 ・給食で、1歳児におかわりを認め、2歳児には認めない	2
保育者が指導内容を守らない 例・はだし保育なのに、園長だけは、はだしでない	2
その他 例・休憩時間の計り方(約束より短いことがある) ・1年次と同じ園で実習した方がよかったのではと言われた	4

## 〔5〕指導案について

## 5-1 短大における指導案の指導

表 5-1 短大における指導 n=96

短大での指導の程度	人数(%)
指導なし	8(8.3%)
プリントをもらっただけ	27(28.1)
プリントを元に指導あり	50(52.1)
詳しく指導された	5(5.2)
回答なし	6(6.3)
計	96(100)

2年次の保育所や幼稚園での実習では、多くの場合、指導案を書いて部分実習や完全実習を行う。実習生でも指導案を書かず、子どもの動きに合わせて適宜対応するという園もあるが、ほとんどの園では保育の「ねらい」を把握し、ある程度子どもの動きを予測して対応をイメージしておく方がよいとされている。そのため本稿の「目的」で触れたように、本学でも全員に3科目で指導してきた。この短大の指導を学生はどう受け止めているのか、結果を表5に示した。

全員が1年次に3科目で指導案について学んでいるうえ、一部の学生は2年次に選択科目で4回目の学習をしている。しかし、8.3%が「指導なし」、5.2%が「詳しく指導された」と答えている。同じ指導を受けながら、こうした違いが起きるのは、学生一人ひとりの学ぶ姿勢や理解力が異なることが一因であろう。しかし少しでも多くの学生が理解できるように、今後指導を改善すべき点もあると思われる。

## 5-2-1 指導案を書いたか

表 5-2-1 指導案を書いたか n=96

園の指示		人数(%)
指導案を書いた(○)、書かない(△)		
書くように言われた	○	74(77.1)
不要と言われた	△	8(8.3)
自由なのでたので書いた	○	11(11.5)
自由なので書かなかった	△	2(2.1)
小計 ○ 書いた者		85(88.5)
△ 書かなかった者		10(10.4)
回答なし		1(1.0)
合計		96(100)

表 5-2-2 指導案の種類(時間)と書いた回数 n=85

指導案の種類	回数	1 回	2 回	3 回以上	合わせて 2 回	合わせて 3 回以上	合計
① 1 時間以内		21人	12	5			38人
② 1 時間以上半日以内		12	4	1			17
③ 1 日実習		9	3	1			13
①と②					1		1
①と③					6	5	11
②と③					3		3
①, ②, ③						2	2
合計		42	19	7	10	7	85

何%くらいの学生が指導案を書いたか調べた結果は、表 5-2-1 に示した。園から「書くように言われた」のは74人(77.1%)だが、「書くのは自由」といわれても13人中11人は指導案を書き、全体では85人(88.5%)が書いていた。「自由なので書いた」という学生に本調査後に確認したところ、「積極性」を示したいから、「幼稚園実習に備えて」、「せっかく実習に来たのだから」というのが「書いた」ことの理由であった。

#### 5-2-2 指導案の種類と書いた回数

どのくらいの時間の指導案を何回くらい書いたのかを、表 5-2-2 に示した。1 回だけ書いた学生は42人(49.4%)である。「1 日実習」を書いたのは、29名(34.1%)であった。書いた回数が一番多かった学生は「1 時間以内」を 3 回、「半日以内」を 3 回、「1 日実習」を 2 回、合計 8 回書いていた。

ちなみに短大で学生が書いている指導案は「1 時間以内」または「半日以内」であり、「1 日実習」は資料プリントを基にして指導されている。

#### 5-3 指導案に関して困ったこと

表 5-3 指導案に関して困ったこと(自由記述) n=86

困った点	人数(%)
指導案に何を書けばよいかわからない	16(18.6)
子どもの動きの予想とその対応がわからない	15(17.4)
どの程度詳しく書けばよいのかかわからない	14(16.3)
導入が書けない	4(4.7)
「ねらい」が書けない	4(4.7)
言葉の使い方、表現	3(3.5)
時間配分	3(3.5)
子どもがどの程度のことができるのかかわからない	2(2.3)
園や保育士により指導が違う	2(2.3)
その他	6(7.0)
記述なし	20(23.3)

5-1 で「詳しく指導された」という回答が 5.2%に過ぎない(表 5-1)ことから予測されるように、ここでは指導案が書けないことのさまざまな状況が示されている。中でも「何を書けばよいのかかわからない」(18.6%)と「子どもの動きの予想とその対応がわからない」(17.4%)の 2 項目は、書き始めることができない状態だといえる。これに比べ、「どの程度

詳しく書けばよいのかわからない」のは、園によっては話すことばまで書く場合や、子どもの動きを何通りも予想してその対応を書く場合など、詳しくさにも違いがあり、実習生にとって判断が難しいことによると思われる。また1日実習については、短大の指導が不足していることも、「書けない」ことの一因であろう。

#### 5-4 指導案についての園の指導等

表5-4-1 指導案についての園の指導 n=86

書く意味を説明したか	人数 (%)
はい	21(24.4)
いいえ	64(74.4)
不明	1(1.2)

表5-4-2 指導案の内容を指定されたか  
n=86

内容を指定されたか	人数 (%)
指定された 例 デイリープログラムに沿って パネルシアターとペープサート	7(8.1)
自由だった	79(91.9)

表5-4-3 事前提出したものについての指導  
n=84

指導内容(自由記述)	人数 (%)
もっと詳しく書くように 例 ことばかけも書く、具体的に書く 図を入れる、導入も書く 子どもの姿をいろいろ予想して	27(32.1)
全体に不足している点について	10(11.9)
指導内容を明確にするように	7(8.3)
この年齢にふさわしい活動を	7(8.3)
時間配分	3(3.6)
終わり方も大切	2(2.4)
「ねらい」の書き方	2(2.4)
その他 例 安全に配慮、手遊びを入れる	8(9.5)
特に指導はない	27(32.1)
記述なし	3(3.6)

実習園では指導案を書くことが当然視されているためか、書く意味を説明したのは21園(24.4%)だけであった(表5-4-1)。しかし説明があっても、学生が覚えていないこともありうる。

指導案を書く場合、内容を指定されたのは7人(8.1%)であった(表5-4-2)。指定の仕方は表にあるように「工作を何か」とか、「パネルシアターを取り入れて」、という緩やかなもので、具体的には学生が決めることができる。一方「自由」とされた場合でも、事前に提出して書き方等の指導を受ける際に「手遊びを取り入れてはどうか」というようにアドバイスを受けている例があった。従って、テーマに関して大まかな指定があった場合や導入のアドバイスについて、「指定」とするかどうかは、実習生の解釈次第の部分もあると考えられる。

表5-4-3に見るように、指導案を書き上げるまでに64人(76.2%)が何らかの「指導を受けた」としているが、「特に指導はない」としたもののなかにも「字句の訂正程度」と付記している場合があった。これは「指導を受けた」方に入れたが、同様なケースが他にもあると思われる。指導で一番多かったのは「もっと詳しく」で、27人(32.1%)であった。

指導案の様式は、教員や保育者の保育観を反映してさまざまなものが工夫されている。本学では最大公約数的な様式を考案して、実習生に持たせているが、実習園の様式があればそれに従うようにという指導をしてきた。「短大で渡したもの」を使用したのは69人(81.2%)で、

表5-4-4 指導案の様式 n=85

様式	人数 (%)
短大で渡したもの	69(81.2)
実習園の指導、様式	6(7.1)
自分で工夫	9(10.6)
短大の様式と園の様式	1(1.2)



園の様式は6人(7.1%)だけであった(表5-4-4)。

### 5-5 その他、指導案について気がついたこと

表5-5 指導案について気がついたこと(自由記述)  
n=85

気がついたこと	人数(%)
細かく具体的に書くべきだった	6(7.1)
短大での指導不足	3(3.5)
書くことでゆとりができた	2(2.4)
1枚では書ききれない	2(2.4)
細かいのも大まかなのもよくない	2(2.4)
園の指導がないので不安	1(1.2)
記入なし	69(81.2)

指導案を書いた85人のうち、「気がついたこと」を回答したのは16人だけであった。「細かく具体的に書くべきだった」(7.1%)という回答からは、実際に保育を展開するにあたり、言うべきことの準備や状況の予測などを十分にできなかったために、戸惑ったであろうということが推察できる。逆に「書くことで流れがイメージできてゆとりが持てた」という2人(2.4%)の回答からは、指導案を書くことの大切さを実感した姿が伝わってくる。保育はハブニングの連続だから計画は無駄という意見もあるが、少ない回答ながら、実習生にとっては指導案が大切だということが示されている。

### 〔6〕準備不足だと感じたり、改善したいと思う点

保育所実習で準備不足と感じたことは、幼稚園実習や就職のために改善したい点でもあるのではないかと考え、この点について質問した。結果は表6に示したように、保育所実習で指導されたこと(表2)とは異なり、「遊びや技術」を挙げたものが56.3%、「指導案」に関しては

表6 準備不足、改善すべき点(自由記述) n=96

内 容(内数)	人数(%)
遊びや技能 例 手遊び(38), パネルシアター(7) ペープサート(6), 歌(5), 紙芝居(4), ゲーム(4)	54(56.3)
設定保育, 指導案の準備	38(39.6)
ピアノ	8(8.3)
子どもとのかかわり方	5(5.2)
子どもの発達段階を理解すること	3(3.1)
準備全体	3(3.1)
文章力	2(2.1)
プレゼント	2(2.1)
体調管理	2(2.1)
自力で対処できる力をつけたい	2(2.1)
その他	4(4.2)
記述なし	13(13.5)

39.6%であった。これは現場に入る前に自分の努力でかなり準備できることであり、手遊び、パネルシアターなど授業の中で学んだことが中心である。これに対して「文章力」、「自分で対処できる力をつけたい」、「もっとはきはき」、「子どもとのかかわり方」、「子どもの発達段階を理解すること」などは短期的に、事前準備として改善できることではないが、課題として捉えておくことは大切である。

どちらの改善点も、今後心に留め努力してほしい。

### 〔7〕短大の実習指導の改善について

実習で役立つと思われる知識や技能を列挙して、学生の授業に対する希望を調べた(表7-1)。過半数が選んでいたのは、1位「手遊び、歌遊び」74名(77.1%)、2位「指導案の立て方」72名(75%)、3位「ゲーム」52名(54.2%)、4位「製作」49名(51%)である。次に希望が多かったのは「日誌の書き方」46名(47.9%)であった。

表7-1 増やしてほしい指導内容(複数回答) n=96

指 導 内 容	人 数 (%)	指 導 内 容	希望人数
①子どもの発達に合った保育方法	22(22.9)	⑪エプロンシアター	5(5.2)
②礼儀作法, 言葉遣い	11(11.5)	⑫パネルシアター	9(9.4)
③日誌の書き方	46(47.9)	⑬ペープサート	8(8.3)
④指導案の立て方	72(75.0)	⑭指人形	8(8.3)
⑤絵本や紙芝居の読み方	30(31.2)	⑮折り紙	27(28.1)
⑥手遊び, 歌遊び	74(77.1)	⑯手話	29(30.2)
⑦わらべうた, 童謡	28(29.2)	⑰自然の中での遊び	26(27.1)
⑧ピアノ	16(16.7)	⑱障害のある子どもの保育	39(40.6)
⑨製作	49(51.0)	⑲縦割り保育の保育内容, 保育方法	34(35.4)
⑩ゲーム	52(54.2)	⑳その他代案	2(2.1)
		記入なし	2(2.1)

## (7) 指導時間のとり方

表7-2 指導時間のとり方 n=96

方 法 (内数)	人数 (%)
①必修を1コマ(90分)増やす	2(2.1)
②選択科目にする 自分は選択する(69) 選択しない(0) 不明(2)	71(74.0)
③現状のままでよい (授業時間に組み込む)	17(17.7)
④代案 例 実習後の情報交換会(1)	3(3.1)
その他	1(1.0)
不明	2(2.1)

表7-1の各項目の内容はすでに多少とも授業にとりいれてはいるが、今以上の要望にこたえるにはさらに授業時間を工夫しなければならない。

表7-2に見るように「必修を1コマ増やす」のは2名のみで、選択科目にするのは71名(74.0%)が賛成し、「自分は選択する」としたのは69名であった。現在は技能のための専門科目はないので、数科目で時間を割いて技能的なものを取り入れている。現状でよいという意見はこれを肯定しているのであるが、時間数を

増やさずに現状のままで「増やしてほしい指導内容」に応えるのは難しい。選択科目化をふくめ工夫する必要があるのではないかと。なお「時間を増やしても学ぶ気持ちがなければ意味がない。本人の努力次第」という意見が1件あった。

## 4 ま と め

実習に関する調査結果から、実習指導として次の改善点が示された。

- ① 学生が保育者の役割を理解して、適切な態度で保育できるように指導する。
- ② 学生に指導案の意味を伝え、どのように書くことが必要か基本を理解させる。
- ③ 詳しい指導案の書き方を指導する。特に1日実習の指導案を書けるようにする。
- ④ 1, 2年生の交流会や、情報交換会で、自主的に学び合える環境を作る。

なお、本調査の実施後に、調査結果の概略を把握した段階で、幼稚園実習に備えて指導案の実例(幼稚園や保育所の公開保育で使用されたもの、学生が実習で書いたものなど)を資料として配布した。

今後は今回の調査を元にして指導案についての詳しい調査を実施したいと考える。



## 参考文献

小舘静枝 他 新版幼稚園・保育所実習のよ 鈴木みゆき他 最新・保育実習まるごとBOOK  
く出会う問題とその対応 萌文書林 1992 小学館 2000

## 資料

### 「保育所の実習に関する調査」

2年生の保育所の実習について質問いたします。今後の指導の参考にするため、以下の調査にご協力ください。内容は授業改善の資料としてのみ扱われますので、安心してお答えください。

組 番 氏名

- 1 実習先を記入してください。
- 2 実習で、保育者として大切などのようなことを学びましたか。
- 3 実習園から特に(1) 指導されたこと(注意されたこと),(2) ほめられたことがあれば書いてください。
- 4 実習園の指導で、納得できなかったことなどありましたら書いてください。
- 5 指導案(指導計画,実習案,日案とも言う)についてお答えください。
  - (1) 短大で、指導案の書き方をどの程度学びましたか。○をつけてください。  
(指導なし プリントをもらっただけ プリントを元に指導あり 詳しく指導された)
  - (2) 実習で指導案を書きましたか。該当項目に○をつけ、回数を書いてください。
    - a ① 書くように言われた。
    - ② 不要といわれた
    - ③ 自由だといわれたので書いた
    - ④ 自由だといわれたので書かなかった
    - b 指導案を書いた方のみお答えください。
      - ① 1時間以内のものを書いた( 回)
      - ② 1時間以上だが半日以内のものを書いた( 回)
      - ③ 1日実習の指導案を書いた( 回)
  - (3) 指導案を書くときに困ったことがあれば、教えてください。
  - (4) 指導案を書いた場合の、実習園の指導についてお答えください。
    - ① 指導案を書く意味について説明されましたか。(はい いいえ)
    - ② 指導案の内容について

- ( ) 内容を指定された  
具体的に( )
- ( ) 内容は自由だった
- ③ ( ) 事前に提出して、それについて指導があった  
具体的に( )
- ( ) 事前に提出したが、特に指導はなかった
- ④ 指導案の様式を指定されましたか。  
( ) 短大で渡したものを使った  
( ) 実習園の指導があり、それに従った  
( ) 自分で工夫して書いた
- ⑤ その他指導案について、気がついたことがあれば書いてください。

6 自分の準備不足だと感じた点や、幼稚園実習までに準備、改善したいこと

#### 7 短大の実習指導について

(1) 増やしてほしい指導内容を選び、番号に○をつけてください。いくつでもよいです。

- ① 子どもの発達にあった保育方法    ② 礼儀作法，言葉遣い    ③ 日誌の書き方  
④ 指導案の立て方    ⑤ 絵本や紙芝居の読み方    ⑥ 手遊び，歌遊び  
⑦ わらべうた，童謡    ⑧ ピアノ    ⑨ 製作    ⑩ ゲーム    ⑪ エプロンシアター  
⑫ パネルシアター    ⑬ ペープサート    ⑭ 指人形    ⑮ 折り紙    ⑯ 手話  
⑰ 自然の中での遊び    ⑱ 障害がある子どもの遊び  
⑲ 縦割り保育の場合の保育内容，保育方法  
⑳ その他 具体的に( )

(2) 上記のような指導を増やす場合，時間割についてどのように考えますか。1つだけ選んで○をつけてください。

- ① 必修を1コマ(90分)増やすとよい  
② 選択科目として，やりたい人が学べばよい。その場合，自分は(選択する 選択しない)  
③ 現状のままでよい。  
④ その他 代案があれば書いてください。

以上